



Consulting & Creative

専門学校
教職員ワーク

No.1

現代専門学校の
経営 概論

Keep
growing!



株式
会社

Consulting & Creative

ユ・ティ・ジー

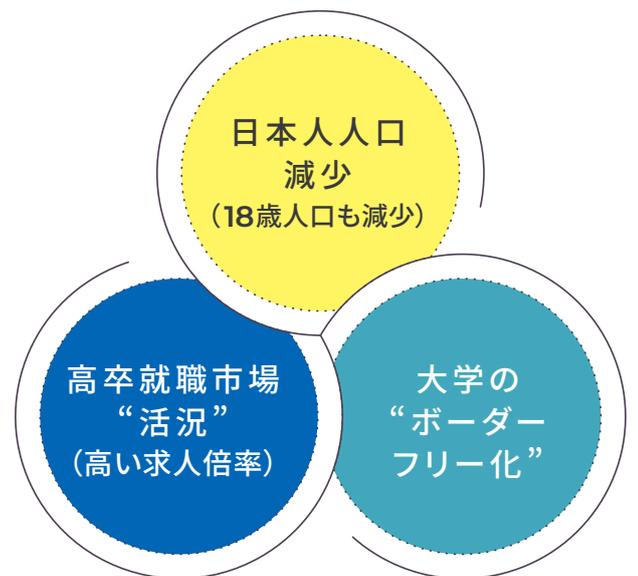
現代専門学校の経営 概論



専門学校の生き残り・存続に必要な 現代専門学校経営 5つの要点

全国の専門学校入学者数は、令和5年度で240,626人、前年度と比較して11,749人減少。令和元年度と比較すると39,381人減少（14.1%減）しています。

人口減だけでなく、高卒就職が容易であること（大卒でも入社しにくかった企業に、高卒入社が可能なケースも増えている）や、大学の多くでボーダーフリー化（不合格者がほとんどいない状態）が進む等の要因から、専門学校の入学者確保は、今後、さらに厳しさを増すでしょう。



専門学校が生き残り、かつ発展しながらの存続を望むなら、早急に時代に合った経営基盤を整えなければなりません。そのためには、現代専門学校経営の要点である「入学者が多く集まる」「学生が辞めない」「教育力」「学生満足度」「満足度の高い就職」、この5つを、恒常的に追及しなければなりません。

現代専門学校経営 5つの要点



専門学校の業務に従事する教員・職員は、目の前の仕事を従来通りの方法で進めるだけではなく、時代に合わせた正しい方法で、適切かつ明確な目標・目的を、共有・理解して進める必要があります。

また、縦割りの狭い視野や、狭い関心範囲ではなく、所属する学校全体の課題を理解し、他部署、他部門の業務内容や課題を相互に理解し合って、協力体制の構築に寄与しなければなりません。

現代専門学校に求められるのは 資格と就職だけではありません

専門学校は、単なる職業訓練機関ではありません。あくまで文部科学省管轄の教育機関・学校です。資格試験の合格、就職先への内定だけが目的ではありません。

学生達が卒業後、社会を生き抜いていくために必要な、社会人基礎力や人間力、EQ といった力の育成にもあたらなければなりません。

今は、どの業界の専門学校生も、就職先から内定を取ることが容易です。

しかし、分野によっては、専門学校を卒業した新卒就職者の早期離職率が非常に高いため、専門学校は、卒業生を就職先に入社させるだけでなく、就職後を想定して各種非認知能力を育成することも必要になっています。

業界によっては、早期離職者が多いことが定説になっていますが、専門学校の教職員は、それに抗い、卒業生達の早期離職防止に繋がる施策として、専門知識や技能だけでなく、社会を生き抜くために必要な各種非認知能力等、多岐に渡る教育に、積極的に取り組まなければなりません。

このような社会背景や専門学校教育の課題を理解し、解決策となる先進的な教育を行うこと自体が、高校生はもちろん、保護者や高校教員への有効な PR 材料となり、学校経営の重要な基盤である学生募集、入学者増・退学者減に大きく影響することは、言うまでもありません。



現代専門学校経営 5つの要点

① 入学者が多く集まる

学生募集に必要な要素を分解して理解することが大切

A

魅力的な事実の構築

- ・ 毎日のキャンパスライフ、クラス風土や校風
- ・ 教学内容、指導内容
- ・ 資格取得と就職
- ・ 心理的安全性

B

効果的な広報活動

事実をベースとした

- ・ パンフレット、ホームページ、各種広報ツールでの PR
- ・ 進学説明会等での対面 PR
- ・ オープンキャンパスでの PR とクロージング
- ・ 出願促進に繋がる施策
(試験日程や試験区分の整備、項目別学費減免制度の整備)

上記、A・Bのバランスが重要



※ A だけが特出すると魅力が伝わらず入学生が集まらない

※ B だけが特出すると退学率が上がり、地域における評判が悪くなる

現代専門学校経営 5つの要点

② 学生が辞めない

未然に防げる退学は 実は、かなり多い



※ 「遅刻・早退 → 欠席 → 長期欠席 → 退学」と、状況が進行するケースが多い」等の基本を理解し、早期発見及び早期対策を怠らない
(期限を付けない、または期限が長すぎる静観は、状況悪化を招きます)

※ 時代と共に退学理由が推移していることを理解し、時代に合った正しい対応が必要

現代専門学校経営 5つの要点

③ 教育力

教育力（ティーチング能力）・引き出し、伴走する力（コーチング能力）・トーチング力（心に火をつける力）、それらに付随する、変化に気付く力・理解を確認する力・一定に感情を保つ力と、紳士的なコミュニケーションを維持するスタンスが必要。また、学生達の生活における、自校での学習の重要度・優先度を上げ、卒業時まで保つ工夫も必要。

- ※ 注意・指摘・指導にあたっては、終始 紳士的な言動であることが必要
- ※ より理解しやすい教示方法の追及と意欲を右肩上がりに維持させるコミュニケーションの両立が必要
- ※ 5年前と比較して、授業手法や学生とのコミュニケーションスタンスが変わっていなければ、要注意

現代専門学校経営 5つの要点

④ 学生満足度

ハード面の充実

設備・施設・建物内装・建物外観

ソフト面の充実

- 教員・職員のコミュニケーション
(授業・クラスマネジメント・手続き・授業外のコミュニケーション等)
- 教育内容
(カリキュラム・成長を実感させる仕掛け・習熟度を定量化して把握する仕組み・落ちこぼれ、ふきこぼれ学生の早期発見と対策)



現代専門学校経営 5つの要点

⑤ 満足度の高い就職

ミスマッチを防ぐ受験先の選定と、新規就職先の開拓

A

教職員のスキル UP

- 学生の内面を引き出し理解する力
(カウンセリング・コーチングの基礎を習得)
- 学生のタイプ別に、マッチする職場のパターンを把握する
- 就職先の業界や企業についての理解
(社風・在職社員・マッチする学生のタイプ・特徴等)を深める

B

社会人基礎力とEQの育成

- 社会人基礎力とEQについての理解
- 年間授業スケジュールに、当該能力の育成を目的としたコマ数を確保
- 日常コミュニケーションや授業外指導、特別授業を実施する等
継続的に育成

C

職業教育機関の根幹となる教育を
時代に合わせて充実させる

- 就職を目指す職業に必要な基本知識と、基礎技術の習得
- 目指す職業に従事するために必要、もしくは有効な資格取得試験に合格
- (☆) 就職先の業界で求められる非認知能力を理解し、自ら率先垂範し、
教育活動にあたる

EQ 及び IQ 教育について

EQ 教育とは

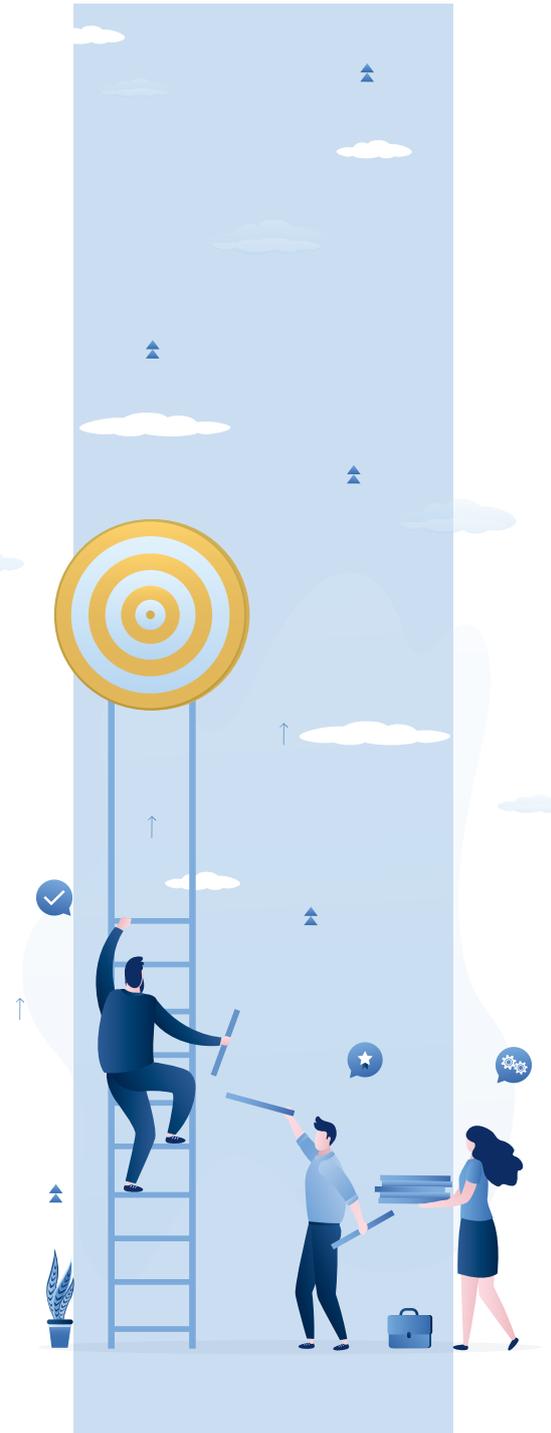
EQ (Emotional Intelligence Quotient) とは、「心の 知能指数」を測る指標のこと。感情をコントロールして応用できる能力を指し、ビジネスシーンにおける対人関係、対人能力を良好に発展させる基礎能力とされています。「知性を判別する IQ (知能指数) だけで人の知能は判別できない」と以前から言われていて、そこで考え出されたのが新たな指標「EQ」です。

学生達は専門学校卒業後に就職し、多くの場合、就職後はお客様と接し、上司・同僚との日常的かつ継続的なコミュニケーションによって、良好な関係性を維持することが必要になります。資格試験の合格、内定の取得だけでなく「就労現場での定着」「早期離職の防止」の観点からも、EQ 教育の導入は急務となっています。

IQ との違い

IQ は、頭の回転の良さや知能の発達を測定する指標のことで、「知能指数」とも呼ばれます。単に勉強ができる、偏差値が高いといった話ではありません。あらゆる問題に対する対処や合理的思考ができる問題解決能力、思考能力の結果などを表します。

仕事を進めていくうえでの効果・効率の追及、仕事上の人間関係において、自己の印象がどのように相手に伝わっているか、また、どういった印象を持たれることが、自身が望む形で就労できるか？活躍のチャンスを掴めるか？等を想像するにあたって、一定以上の IQ が必要です。



実践的なIQ育成の手法として有効な事例

A



文章を読ませてから質問し、
理解が表面的でないかを
口頭試問しながら確認する

B



暗記だけではなく、
本質や主旨を理解して記憶
しないと、回答できない
問いかけをする

C



慣れない難解な文章でも、
最後まで読ませる
(繰り返し読ませる／理解でき
ない部分をピックアップさせる
等も有効)

D



「漠然と分からない」ではなく、
「どの部分がどう分からない」
と言葉にして質問させる

非認知能力について

非認知能力とは

知能検査や学力検査で測定できない能力のこと。

具体的には、やる気・忍耐力・協調性・自制心など、人の心や社会性に関係する力を指します。自分自身を動機づけて高めようとしたり、自身の感情をコントロールしたりしながら、自分と他者の双方を大切にできる非認知能力の育成が、変化の激しい現代社会では、特に必要とされています。